

総力特集
大マスコミが報じない隠された真実

Part.1

新型インフルは ウイルステロルだった!

「膨大な利益を生む、パンデミック騒動の裏には米国を中心とした
『闇の権力者』が存在する」と、現役自衛隊幹部が語り始めた

猫も杓子もマスクを買い求め、人々が必死に防御策を講じている新型の
豚インフルエンザ。09年4月にメキシコでの流行が報じられるや、瞬く
間に全世界へ飛び火し、国立感染症研究所の推計によれば昨年7月27日
から12月13日までに約1539万人が医療機関で受診しているという。
事態はまさにクラシス。今、歴戦の将が立ち上がった!

世界金融体制が インフルエンザ騒動 を解くキーワード

厚

労省発表によれば、昨
年12月22日までに国内
で1万3784人が入
院し、128人が豚インフルエン
ザ(H1N1型)で死にしている
という。患者の延べ人数を考えれ
ば、家庭や職場でも感染者が頻発
するのも頷ける。こうしたなか、
政府は躍起になってワクチンをか
き集めており、今年3月末までに
7700万人分の在庫を確保する
予定だという。

ら、どうも大間違いらしいのだ。
陸上自衛隊1等陸佐にして、健康
問題を独自のアプローチで研究す
る池田整治氏にお話を伺った。

国民の健康は国防に 直結する重要なテーマ

— 現役自衛官でありながら健康
問題について並々ならぬ関心を寄
せている理由は何でしょうか？
隊員の健康を守るのが上官の最
も大事な仕事です。同様に、家庭
においては家族の健康を守る義務

もありませんし、健康問題について
は関心を持たざるをえないのです。
国民の健康は、国防に直結する重
要なテーマとして認識しています。

— 著書「マインドコントロール」
によると、先生はオウム真理教強
制捜査の際、自衛官として唯一参
加されたそうですが、この事件で
注目を浴びたマインドコントロール

ルが実は国民の生活や民族の歴史
に至るまでの広範な領域にまで及
んでいると言及されています。先
生の健康問題に対するスタンスは、
そうしたことから脱却を目指す
ものと思いますが、具体的な研究
テーマを教えてください。
大きくは2つあります。まず、

人体の免疫機構に対する誤解を解
くこと。もう一つは、そうした人
体の自然治癒力を低下させる要素、
食品添加物、水道水に含まれる塩
素、そしてワクチンの危険性を周
知させることです。

— そこで昨年4月からの世界的
な新型インフルエンザ騒動と繋が
ってきます。なぜ先生はワクチン
接種に懐疑的なのでしょう？

いえ、懐疑的なのは私だけでは
ありません。ヨーロッパ、特にイ
ギリス、イタリア、フランスでは
「インフルエンザにワクチンは無
意味」と主張する医療関係者の声

がテレビで堂々と流れています。
逆に、日本、韓国、アメリカでは
「ワクチンを打たないと死ぬ」と
唱える報道ばかりです。

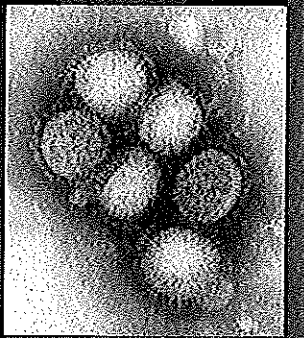
2 パスツール以来のワクチン信 仰には大変強いものがあると思 いますが、否定派の意見には根拠 があるのでしょうか？

ウイルスは突然変異のスピード
が極めて速く、その年に流行する
ウイルスの型を的確に予測するの



陸上自衛隊1等陸佐
池田整治氏(59)

オウム真理教の強制捜査にも参加した歴戦の
将。空手道7段にして全日本実業団空手道連
盟理事長。陸上自衛隊小平学校人事教育部長
として後進の育成に力を注ぐ。昨年末に著書
「マインドコントロール」(ビジネス社)を上
梓。西洋医学偏重の医療から人体の自然治癒
力を高めるホリスティックへの回帰を主張する





マインドコントロールは日本人の深くに刻まれている

は困難ですし、そもそも感染自体を防げません。そうなる、実質的な効果が期待できないワクチンを血管に入れるのは、無意味どころか毒でしょうか。

—ただ、予防接種によって抗体が作られて免疫力がつき、かつ、ウイルスの型が合っていれば効果を発揮するのでは？

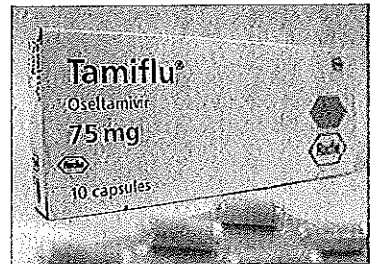
そこが大きな誤解です。抗体イコール免疫力でなく、予防接種はむしろ免疫力を低下させてしまふんです。免疫力は、ウイルスら異物を認識し、NK細胞やマクロファージで殺し、体外に排除する機能です。このとき異物が多すぎて免疫が処理能力を超える、同じ白血球のB細胞が処理待ちの異物らに付着してマキング

れているのでしょうか？

本来、栄養は口から入り、細胞が吸収できる分子サイズまで分解されて、消化吸収されます。ところが、ワクチンは鶏卵にウイルスを接種して増殖させ、タンパク質を精製して作られます。人体の免疫機能が想定していないような桁違いに巨大な異物を血管に直接流し込むという事です。これに対処するために抗体が異常生産され、タンパク質代謝が崩れて抗体が突然変異を起こします。すると、異

常な抗体が付着した細胞や組織は体にとって異物として認識され、免疫系が自己攻撃を始めてしまふ。しかもワクチンには保存料として有機水銀なども入れられています。なぜそんなものが国の推奨で国民に接種されているのですか？

メディアによるマインドコントロールと言うと陰謀論めいてしまふますが、インフルエンザ治療にまつわるお金の流れを見れば状況は一目瞭然です。メディアが恐怖心を煽り、予防接種を半ば義務化することで得をするのは誰か。例えばタミフルの製造元であるキリアドサイエンス社の元会長は、あのラムスフェルド氏。タミフルやワクチン接種の必要性を積極的にニューズで流しているのは、是非ともかく米国主導の世界金融体制下にある国家ばかりですよ。さらに恐ろしいことに、日本の主要メディアでは一切報じられなかつたのですが、あるインフルエンザワクチンには、なんと生きた鳥インフルエンザウイルス(H5N1型)が入っていたんです。たまた



新型インフルエンザに効果があるとされるタミフルだが、一方で薬害により最悪、死に至る事例もある

ま出荷先のチェコで動物実験をやつたところ、3000匹のフェレットが全滅です。こんなことがBSL3基準の下、厳格に管理している研究所で起こるはずがありません。単なる過失では済まされな

い、なんらかの意図を感じざるをえません。もしも運良くチェコで事件が発覚しなければ、毒性の強い鳥インフルエンザウイルスが世界中に拡散していたはずですから。状況証拠的にはマツチボンブの疑いが濃厚ということですね。

アメリカ型商業主義から今こそ脱却せよ!

最後に先生の処方箋を教えてください。

自然治療力を高めるアプローチが最善の策です。基本は、必須アミノ酸、ビタミン、ミネラルらの栄養をしっかりとって口養生すること。逆に、体内に入れてしまった毒などを除去するには、英国王室の信任も厚いホメオパシーが良いでしょう。また、免疫力が不足するとき、人体は高熱を出すことでウイルスを殺そうとしますから、解熱剤投与は控えるべきです。日本ではアメリカ型の商業主義的な医療が横行する一方ですが、欧米では日本の食生活が注目を浴びています。世界に誇れる自国の文化を日本は積極的に発信していく必要があるでしょう。深く刻まれたマインドコントロールから、今こそ日本は覚醒するべきではないでしょうか。

1 水道水に含まれる塩素

日本の水道に塩素が入るようになったのは敗戦後のGHQ軍による。だが、当時の米軍将校たちは、決して塩素入りの水道水を口にしないという。

2 バスツール

フランスの生化学者、細菌学者ルイパスツール(1822-1895)は、近代細菌学の祖とされ、ワクチンの予防接種という方法を開発。

3 感染自体を防げない

インフルエンザに自然感染すると免疫が付き、喉や鼻の粘膜で防衛できるが、予防接種では血液中に抗体ができるだけ、よって感染自体は防げない。

4 ギラン・バレー症候群

急性散在性神経根炎、けいれん、発熱、意識障害を伴い、患者の約6%が死に至る。ワクチン接種時に作られる抗体が自身の神経を攻撃することで起るとされる。日本脳炎ワクチン接種時の副作用としての報告例多数。

5 ラムスフェルド

ドナルド・ヘンリー・ラムスフェルド(1922-)。フォード政権下の第14代、ブッシュ政権下の第21代の国防総長を務める。軍産複合体の利益を代弁するオピオンの中核としてアフガンやイラク侵襲作戦を指導した。夫妻と2人の息子、5人の子供を有し、ラムスフェルドは、ギリアドサイエンス社の会長に任じられ、同社による同社株主総会に出席し、大利益を得たとされる。

6 BSL3基準

人間や動物に重篤な病気を引き起こす病原体を取り扱う実験室の安全基準。

7 ホメオパシー

ドイツ医師ハインマン(1774-1843)が提唱。レメディーと呼ばれる有効成分をごく微量にした薬剤を使用することで人体の自然治癒力を刺激するとされる。現代は対症療法である。ロバート・ホメオパシーが主だが、19世紀初頭まではホメオパシー(免疫力を高める)の血球療法など5系統の医学が共存していた。